 <p>AJU コンビニハウス 会報</p>	<p>編集/コンビニの会事務局 連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地 TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)</p> <p>障害をもつ人たちの地域生活を支援する</p> <p>特定非営利活動法人 コンビニの会</p> <p>定価/150円 昭和54年8月1日第三種郵便物承認</p> <hr/> <p>第163号</p>
---	--



三重県いなべ市北勢町で撮影 (2023年7月)

気になる気になる木

フリー編集者 佐宗 圭子

この木を見たとき、日立のテレビCM「この木何の木、気になる気になる木」を思い出した。

おなじみの「日立の樹」は、ハワイの公園にある。高さ約25m、幅は約40m、幹の回りが7mにも達するモンキーポッドというマメ科の植物だ。樹齡は意外と若く130年だという。日本の神社の森などには樹齡何百年という巨木が結構あるが、日立の樹のように横へ横へと大きく広がった樹形は珍しい。

写真の木は、地元の方によれば、柳の木なのだから。柳といえば、細い葉のシダレヤナギしか知らなかったが、この柳は葉に丸みがあり、枝が垂れ下がらないタイプで、マルバヤナギ、アカメヤナギなどという名前らしい。そして、よく見たら1本の巨大な樹木ではなく、10本くらいの細い木が集まって大きな姿になっているのだった。

(次ページへ)

全体として見れば、横幅は少なくとも20〜30mくらいはありそう。地元の方が「近くで見ると何となく霊力を感じる」と言うので、ぜひとも近づいて見てみたい！しかし、木は川の中州にある。近づこうとすれば、生い茂るヨシを踏み分けて、浅いとはいえ川にバシヤバシヤと入って行かなければならない。また、夏草が茂った草むらは、マムシのリスクもある。

地元の方々もこの木を大切にしている、かつては川を渡るよう小さな橋を手作りで架けて、近づけるように整備したこともあったそうだが、橋は朽ちて流され、今はときどき自主的に木の周囲の草を刈る程度で、ほぼ自然のまま（草ボウボウ）である。

まあ、遠くから眺めるだけでも、のびのびとして気持ちがいい。中州にポツンと一群の木だけが立っているが、1本だけでは風雨にさらされて残りにくかっただろう。仲間の木と一緒にだったから互いに支え合って大きく成長できたのかもしれない。そう思うと、ますます愛着が湧く、気になる気になる木である。



三重県のお菓子「いばら餅」をご近所さんとつくりました。昔は田植えの頃から夏の間によくつくったそうです。

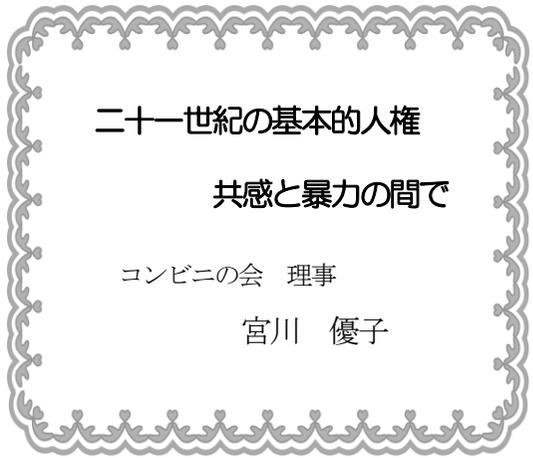
雑記 ごまめの歯ざしり

夜のドライブ

熊本県東部の田舎町。6月上旬のある日、午後9時少し前、「お迎えを頼む」という電話があり、乗用車に乗り込む。家の前の暗くて細いでこぼこ道をしばらく行くと、県道に出る。県道とは名ばかりで、どうにか車がすれ違ふとができるほどの幅員に、この季節は両側の路肩から伸びた草が道を覆い、道の真ん中を走るしかない。曲がりくねった道をゆっくり上っていくと、しつぽの長いイタチがさつと横切る。タヌキはお腹が丸くしつぽが大きく遠目からでもすぐわかる。タヌキやアナグマは、姿を見るより彼らの「溜めグソ」に出くわすことのほうがよっぽど多い。野ウサギは、小さな体でびよんぴょんとかなり速く走る。イノシシの親子と並走したこともある。山の斜面から突然飛び出してきた母イノシシ。等間隔の行列で、ウリ(子)が、1、2、4匹。うつむき加減で短い脚を懸命に動かし母さんに付いていくウリ坊たち。10分ほどで町の中心部。点滅信号のある交差点は人気がなくひっそり。ほろ酔いの夫を助手席に乗せて、のんびり県道を下っていく。田植えが済んで間もない田んぼが段々と続く。月明りがあれば、棚田の水面がキラキラと輝き美しい。鹿は、苗が分けつ(株が育つてくると、茎の根元から新しい茎が生えてくること)し始めるちょうど今時分、苗を食べる、というか苗の上部をちよきんとかじりにやってくる。田んぼの主たちは電気柵、網、点滅するライトなど、鹿の侵入を防ごうと懸命に手だてを施している。井手の上は、数匹の蛍が緑色の小さな光を放ってゆらゆら飛んでいる。蛍見物にはちよつと時間が遅い。

家に到着すると、うちの番犬が顔を出し、静かにお迎えしてくれる。

(支援者 大隈 美佐子)



二十一世紀の基本的人権

共感と暴力の間で

コンビニの会 理事

宮川 優子

件などいずれも人権と深くかわつたもの

ばかりです。これは偶然のタイミングではな

く戦争が起きているからこそ人権が強く意

識されていると思われま



自分が所属する集団を守ることを理由に

して戦争は始まります。戦没学生の遺稿をあ

つめた「きけわだつみのこえ」には愛する恋

人や母を守るために戦争に行く若者の苦悩

と決意を今でも知ることができます。国のた

めとは大切な人のためのことであり、敵は民

族あるいは宗教、価値観など違うやつらだか

ら殺しても構わないと信じさせられて。結局

のところ勝とうが負けようが、多くの命が失

われ、焦土となつた故郷が残っただけでした。



人権とは※イデオロギーに関係なくどの

国に生まれようとも誰もが持つてゐるもの

です。この人権に対する考え方は1948年

の世界人権宣言に始まります。第二次世界大

戦で大きな犠牲を払つたことから平和の前

提には人権の尊重が分かちがたいことが理

解され、国連で採択されました。「敵も私と

同じひとりの人間である」「私の愛する人を

戦場に送りたくない」と当たり前前に考えるこ

とが多くの国の憲法に反映されて政治や制

度を変えていきました。残念ながら人権を軽

んじている国では国民を巻き込む戦争が紛

ロシアのウクライナ侵攻が昨年から続き、

激しい空爆やダムが決壊の様子を映像で見

せつけられています。今まで知らなかつたウ

クライナの傷ついた人や廃墟となつた建物

に心を痛めています。このような状況の中、

国内で話題となつてゐるのは人権管理法、L

GBT理解増進法、芸能界のハラスメント事



2008年に発効した障害者権利条約は女性差別撤廃条約などと共に締約国の人権侵害を指摘し、批判できる監視機関付きの人権条約です。昔は他国から内政には干渉しないことが国際社会の原則でしたが、現代は国家の枠組みをこえて人権の理念を拡大する具体的な仕組みがあります。締約国は総括所見で出された課題に次回の審査までに応える努力が求められ、何の対応もなされなければ国際社会からの批判にさらされます。

2022年9月に障害者権利委員会は、2014年に批准した日本政府に対し初めて対面審査を行いました。特に問題とされたの

が第19条「自立した生活および地域生活への包容」について脱施設化が遅れていることです。それぞれの障害や事情に応じた暮らしの場を選択できない現状は深刻です。

エゼル福祉会が現在取り組んでいる暮らしの場建設がこのような時代の要請に応えられるのではないのでしょうか。21世紀の人権という大きなテーマで書きましたが「きっとうまくいく」と信じて前へ進めていきます。



※「人権とは何か」チャット型のAIに尋ねてみました。

単に人間であるということに基つく普遍的な権利であり、『人間の生存にとって欠くことのできない権利および自由』とされるものです。人権は、国家や社会から与えられたものではなく生まれながらにして持っているものであり、決して奪われることはできません。人権は、自由権や参政権、社会権などさまざまな種類があり、国際的に保障されています。人権は、人間の尊厳を守り、平和で自由な社会を築くために必要なものです。

学生ヘルパーの経験

日本福祉大学1年 佐藤 晴紀



私は平日の午前中は基本毎日学校があり、

午後は委員会活動やサークルでの活動、そしてエゼル福祉会で介助のアルバイトをしています。高校では福祉コースという、卒業と共に介護職員初任者研修が取得できる場身を置きました。

このアルバイトに出会ったのは、大学の帰り道でした。職員の方々がアルバイト募集のチラシを配っていて、そのチラシの書いてあることに魅力を感じました。資格を持っている

ると特定の条件を満たすことで給料が上がること、家から近いこと、そして何より障がいを持っている方々に深く関わること。それら全てに魅力を感じ、ここでアルバイトをすることを即決しました。

実際にグループホームで生活をされている障がいがある方々のヘルパーをしてみようと思ったことは、職員とヘルパー、そして利用者さん達が、まるで家族みたいだということでした。若干困難はありますが、楽しくコミユニケーションをとったり、一緒にゲームをしたり、お出かけをしたりして、正直私はその場を楽しんでいます。勿論、仕事としての気持ちは忘れないようにしています。常時、利用者の顔色を伺い、生活習慣を崩さないよ

うに規則正しい生活ができるよう介助をします。しかし、大変さの中に楽しいことも多く存在することを知って欲しいです。

以前、休日に利用者の方と一対一でカラオケに行く機会がありました。2人だけということもあって会話が続けるのか、しつかり正しい介助を行い「自立支援」という形を忘れずに自分だけでやってしまわないかなど、不安要素は沢山ありました。しかし、職員の方には「まずは今日という休日を楽しませることが大切。その為には、ヘルパーが楽しまなきゃいけない。ヘルパーが不安そうな顔をしていれば、利用者さんも不安になってきます。う。」と教えて頂き、その場その場に意識を持ち、利用者さんを見て気持ちに寄り添う形

で外出に望みました。時折、ヒヤリとすることもありましたが、こちらが楽しんでいる雰囲気を出すと、利用者の方も同調してくれて、結果的には2人で楽しめた外出だったと思います。ヘルパーはガードマンのようなものではなく、あくまで友人や親族のようなものなかなと感じました。これからもその時の気持ちを忘れずにアルバイトに望みたいで

す。
私は将来、心理士になりたいと思っています。そのために大学は心理学科に在学して、心理学について学び、コミュニケーション能力を高める努力もしています。アルバイトを

ることで、現在の福祉の何に満足して、何を求めているのかを知ることができることです。利用者の方からエゼル福祉会では本当に自由で過ごしやすいという話が聞けました。

次に福祉の世界に触れたという実績が残るといことです。例えば、心理士を目指す人は皆、大学を卒業するまでにサークルやボランティアで活動を行い、福祉に触れようとするのではないでしょうか。私にとっては今のアルバイトが、心理士を目指すのにあつて大きな経験になると思います。現在私がエゼル福祉会でヘルパーとして難なく働くことができていのも、高校で福祉を学び、ある程度の心構えができていたからです。

これらのように将来に役に立ち、自身の人

間性の成長にも繋がるアルバイトは、そうそう無いと思います。将来福祉に関わる仕事に就きたい人も、またそうでない人もエゼル福祉会で、短い間でも介助することを体験してみたいです。



Aさん、どの漫画がいいですか〜 (左：佐藤さん)

久しぶりの一日外出

WILL 職員 大森 直子

「そわそわ」と「わくわく」、実際にその音を耳にしたことはもちろんありません。でも、その日WILLは一日中「そわそわ」「わくわく」で溢れかえっていました。

2020年4月に緊急事態宣言が出されてから中止していた、実に4年ぶりとなる一日外出の前日。いつもはWILLに到着すると「おはよう」という控えめな挨拶のあと、昨日TVで見た野球中継や相撲の話をしてくれるAさん。この日は朝から何度も繰り返

し「明日はコロナワールドに行つてボーリング！そのあとブロンコビリーでごはんを食べるよ！」と話してくれました。他の利用者の方も同じで、話題は翌日の一日外出のことで持ち切り。みんな明日を楽しみにしている様子がひしひしと伝わってきて、中心となって企画を進めてきた職員も本当に嬉しそうでした。

今回、企画は大変でした。当初は、ボーリングの後、向かいにあるステーキハウスで食事をして、またコロナワールドに戻つてカラオケ、というみんなの「したい！」を詰め込んだタイトなスケジュールでした。詰め込み過ぎ？でもせっかく久しぶりのみんなでの外出。目いっぱい楽しみたい！綿密にタイムスケジュールを組んで大丈夫！いざ！と動き出した矢先にWILLに一本の電話が入りました。

ステーキハウスがまさかの火事で営業停止！そんなことつてある？驚きながらも昼食場所を一から探し直したのが、外出予定日の一週間前でした。みんなが食べたい！と切望する「じゅうじゅう音を立てて提供されるハンバーグ」のお店で、車いすで入れるトイレがあつて、席で食事を食べやすくするために電源も使えるお店。なかなか条件にあうところが少なく、探して探して、やっと落ち着いた今回の外出プラン。なのに当日、6月2日は大雨でした。

雨だけど楽しもう！と朝礼で予定を確認すると、いつもは自ら気持ちを発信することの少ないKさんが「行くぞー！」と言わんばかりに天高くこぶしを挙げました。きつとずっと忘れられない一場面に出会えた気がして、胸がポウと温かくなりました。

ボーリング場では一投ごとに歓声や惜し

い〜と残念がる声。あれ？ボーリングってこんなに楽しいスポーツだったっけ？と思いつながら、ストライクを出して弾ける笑顔のMさんと交わしたハイタッチが強く心に残っています。

ボーリングの後、昼食場所への移動が必要となつたため、カラオケはなしに。探しに探したお店は、店員さんの心遣いや温かい接客態度に、次の一日外出もこのお店で食事したいね！って職員で言い合ったほど。こういうのを「けがの功名」というのだなと思いつながら、ゆつたりと食事をさせてもらいました。

「今日は夕飯いらなくらい食べてきてください！」と母から笑顔で送り出されて来所されたSさんは、鉄板の上でじゅうじゅう焼けるハンバーグはもちろん完食。サラダバーやドリンクバーでおかわり3回、4回、デザートゼリーもおかわりをペロリ。みんな

なもそれぞれ満腹大満足の笑顔で帰路につきました。

コロナに振り回されていた3年間、なかなか外出ができず、WILLでは様々な室内イベントを企画して行ってきました。カフェ、ゲーム大会、盆踊り、ハロウィン、クリスマスパーティ、カラオケもボーリング大会もありました。そんな3年を経て、ボーリングと外食と、予定していたけど行けなかったカラオケ。そんなに特別な外出先ではなかったけれど、みんなの「そわそわ」「わくわく」や、当日の笑顔に、特別ではない場所に行くことさえ、難しかった日々を思い出しました。これから先、行きたい場所に行ける日々が続きますように。そして、当たり前に行きたい場所へ行ける障害（障壁）のない社会を、私たち一人一人が心掛けて作っていくことの大切さを感じた一日となりました。



狙いを定めて・・・ストライク！



ステーキハウスでお腹いっぱい☆



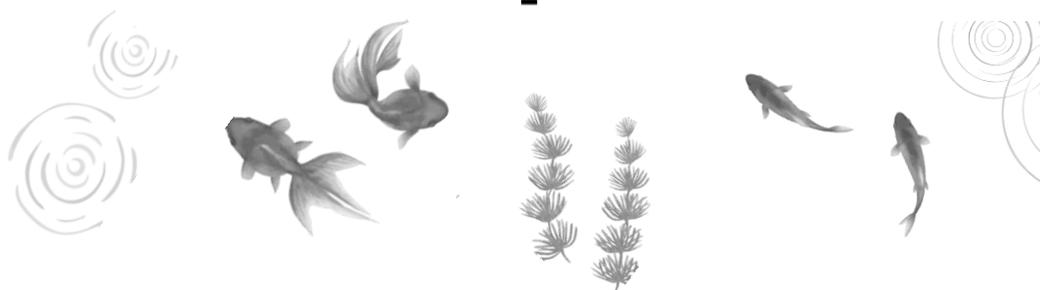
《活動状況》

5月

- 3.4日 W I L L ・ V O L O 祝日開所
- 6日 音楽サロン開催(ハーブ&ヴァイオリン)
- 7日 重度訪問介護従業者養成研修(1日目)
- 9日 生活支援部 運営会議
- 12日 親の会 暮らしの場設立委員会
- 12日 きょうされん役員会(大森直)
- 19日 名古屋生活支援事業所連絡会 会議(渥美)
- 14日 重度訪問介護従業者養成研修(2日目)
- 17日 日本福祉大学訪問(溝口・榊原)
- 19日 あいされん総会(溝口・佐藤)
- 20日 地域共生社会研修 講師(溝口)
- 21日 重度訪問介護従業者養成研修(3日目)
- 25日 同朋大学寄付講座 講義(溝口・馬淵)
- 25日 会報発送
- 25日 エゼル福祉会 監事会
- 30日 日本福祉大学訪問(塩澤・榊原)
- 30日 感染症対策研修(馬淵)

6月

- 1日 エゼル福祉会 理事会
- 2日 あいされん役員会(溝口)
- 3日 音楽サロン開催(ピアノ&声楽)
- 4.11.18日 行動援護従業者養成研修(高橋)
- 6日 会報会議
- 6日 NPOコンビニの会 理事会
- 13日 生活支援部 運営会議
- 14日 W I L L ケース会議
- 13日 名古屋生活支援事業所連絡会 会議(渥美)
- 14日 通所利用者 健康診断
- 16日 あいされん運営委員会(溝口)
- 17日 エゼル福祉会 評議員会
- 18日 就職フェア(榊原)
- 18日 利用者・スタッフ交流レク バーベキュー
- 22日 名古屋生活支援事業所連絡会 会議(渥美)
- 22日 W I L L 一日外出(ボウリング)
- 23日 通所 主任会議
- 27日 エゼル福祉会 理事会
- 30日 暮らしの場交流会(馬淵)

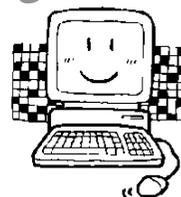


事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

金原 勇 近藤直子 柳野友美
辻 正弘 伊藤衿子 中島温子
渥美 弥 松岡香代 浅野多美子

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

鈴木丈登 大嶋千波

(WILL)

佐藤慶太 丹羽恵子

(VOLO)

安永麻里 塩澤しのか

石原優樹 久保昴太郎

長野資子 栗本博美

早川佳乃 米本晴佳

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 辻本道子
石原まち 鈴木千春 寺西 剛
土田京加 榊原さち 田村淳仁
東原光江 西川昇吾 後藤 楓
桐澤 潮 鈴木悠太 小林愛恵
篠田倫子 渡部陽妃 酒井まみ子
山本 武 松井暖実 榊原つぐみ
梶田里奈 北出麻衣 中川真理乃
田口直子 佐藤晴紀 青島優津樹
末光唯楓 加藤祐叶 長谷川美緒
玉那覇詠洸 平林千聖都

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子
丹羽正子 藤田ますえ



就職フェアのご案内です!

障害者の介助・介護・相談員募集のお仕事フェアです。

リニューアルした鶴舞公園の散策とともに、福祉就職フェアをお楽しみください。
★服装自由。お気軽にご参加下さい

「遠く離れた見知らぬ施設ではなく、
住み慣れた街の中で暮らし続けていきたい」

そんな願いを持つ障害のある人たちを私たちは応援します。
一人では出来ることに限りがありますが、職員が一丸となって
取り組むことで、多くの方の「助けて!」に答えられると考えています。
社会福祉法人・NPO法人などが集まる就職フェアの開催です。

名古屋生活支援事業所連絡会 会長 村田昌史

日時 8月20日(日)
11:00 ~ 15:30

会場 名古屋市公会堂
4階 第7集会室

名古屋市昭和区鶴舞一丁目1番3号

交通アクセス

- ① 地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」
4番出口徒歩2分
- ② 市バス「鶴舞公園」徒歩3分
- ③ JR中央本線「鶴舞駅」
公園口徒歩2分

参加法人一覧

- ①社会福祉法人 あいうえおハウス (瑞穂区)
- ②社会福祉法人 あずま福祉会 (守山区)
- ③社会福祉法人 エゼル福祉会 (西区)
- ④NPO法人 風の会(緑区)
- ⑤社会福祉法人 ゲマインダハウス(守山区)
- ⑥社会福祉法人 さくらんぼの会 (中川区)
- ⑦NPO法人 たんぼぼ(熱田区)
- ⑧社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館(南区)
- ⑨NPO法人 福祉発信基地友の家 (西区)
- ⑩社会福祉法人 みなと福祉会 (港区)
- ⑪社会福祉法人 名北福祉会 (北区)
- ⑫社会福祉法人 やまびこ福祉会 (中川区)
- ⑬社会福祉法人 ゆたか福祉会 (南区)
- ⑭合同会社 誠援会 (千種区)

後援：名古屋市

主催 名古屋生活支援事業所連絡会 〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地
FAX 052-505-6082 E-mail convini@ezeru.or.jp

【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

